

026 井上町区有文書と目録作成について

1 須坂市井上町は、井上源氏の発祥の地として長い歴史をもつ井上村から続く町である。そこに保存、保管されていた井上町区有文書は、小坂神社の社叢の一角にある御蔵に収納されていた。二階の史料収納場所に置かれていた、鉄製の収納庫は開かずの扉で施錠されていた。そこに内蔵されていた貴重史料は、10 個もある収納扉をいちいちバールでこじ開けて、収集・調査させてもらうことができた。

2 井上村は、慶長 19 年（1614）旗本小笠原忠知領、寛永 8 年（1631）幕府領、天和 2 年（1682）松平義行領を経て元禄 14 年（1701）再び幕府領となり、中野陣屋や坂木（中之条）陣屋の支配下におかれ、幕末維新期をむかえている。

天保 9 年（1838）の村明細帳によれば、村高 1,253 石余、うち田高 959 石・畑高 269 石で、安永 9 年には 35 石余が新田として開発・編入されている。明細帳上の家数は 219 軒、人数 889 人の村であった。

3 行財政史料には、幕府領の代官所（坂木・中之条・中野）と村とのかかわりを示す多様な史料が見られ、代官所からの廻達文書が書き写された「御公用留帳」もかなり遺されている。幕末期に増大する博徒・悪党取り締め、儉約ほか百姓の生活規制、奉公人江戸出稼ぎ等の史料も散見される。天保期以降には、名主・組頭・百姓代の村方三役をめぐる内紛があったらしく、書類作成時の署名順が名主筆頭ではなく、百姓代・組頭・名主の順に署名され変化してきている。明治初年には、中野騒動の動向、とりわけ騒動後の動向を示す史料が目をつく。大正期以降では区の子算決算をはじめ昭和期の食糧増産配給制度、隣組関係史料等が遺されている。

土地・税制史料のうち江戸期では史料の半分が年貢割付・同皆済目録で占められている。井上村で注目されるのは、寛文元年（1661）～明治 4 年（1871）の廃藩に至るまでの年貢割付状が、天保 6・慶応 3 両年を除く 209 年間にわたって保管されてきていることである。年貢皆済目録も天和 2 年（1615）以降明治 2 年（1869）までのうち 167 年分の史料が遺されている。明治期になると、地租改正の土地税制関係文書から類外地（等級外）ほか丈量誤謬調査に関する史料が遺されている。官民ともに税制の問題は、最大の関心事であったことを物語る史料群であろう。

産業・交通史料では、寛保年間のたばこ荷（手馬）が仁礼宿で差押えられた一件ほか大笹街道商品流通研究に資する史料がみられる。

神社・寺院史料では、小坂神社や浄運寺関係史料が多い。文書史料のほか高札・棟札も遺されており、正徳元年（1711）の火付け（放火）に関する御法度（高札）もみられる。

どの史料をみても、井上村に生きた村人の生きざま、多様な歴史を現代に伝える貴重なものとなっている。

4 史料は活用されないと死滅してしまう。本史料目録が、井上町区民をはじめ須坂市民ほか大勢の地域史研究者によって活用されることを願ってやまない。当町区有文書の史料調

査・研究を継続して、新たな井上町区民の歴史を開拓し、先人の生き方に学びつつ未来への展望を開きたい。

くわえて、輝かしい伝統と誇りある井上町区民の歴史を、叙述・編さんして、井上町区民の歴史書の子々孫々に伝えられることを期待したい。

5 総史料点数 5600 点を超える史料群を、つぎのように分類して史料目録を作成した。

| | 分類項目 | 史料番号 | 史料点数 | 箱数 |
|---------|-------------|------|------|----|
| A - I | 行財政 (江戸) | 846 | 1366 | 5 |
| A - II | 行財政 (明治) | 702 | 776 | 2 |
| A - III | 行財政 (大正昭和) | 518 | 522 | 14 |
| B - I | 土地・税制 (江戸) | 983 | 1004 | 5 |
| B - II | 土地・税制 (明治～) | 622 | 754 | 4 |
| C | 産業・交通 | 374 | 404 | 1 |
| D | 神社・寺院 | 511 | 708 | 3 |
| E | 教育・文化 | 69 | 76 | 1 |
| F | その他 | 54 | 65 | 1 |
| | 総 計 | 4679 | 5675 | 36 |

6 史料目録の作成にあたっては、史料の現状・存在形態を尊重しつつ、史料閲覧の便宜も考慮して、つぎのようにした。

史料名は、原則として史料中に記載された表題を、そのまま記載したが、無表題史料などには、つぎのように () をもちいて仮表題を作成して掲げた。

(畑荒地書上げ)

(行倒れ者報告)

「記」、「覚」などのみで内容不明の史料については、つぎのように () 内に内容を表示したものもある。

記 (請取証)

覚 (百々川御普請所書上げ)

特に注目すべき史料については、備考欄に内容を示唆する記事を入れておいた。

史料形態については、つぎのように略記した。

横 (横帳)

横半 (横半帳)

縦 (縦帳)

紙 (一紙)

冊 (冊子)

封 (封書)

綴 (ジョイント含む)

括 など

7 本史料目録は、井上町のご理解とご協力を得て、須坂市誌編さん室の下記専門員が分担して作成した。

丸山文雄

井上光由

小林謙三

小林 裕

竹内正勝

勝山一男

宮澤慶男

(編さん担当：青木廣安・丸山文雄)

2009 年 10 月 27 日

須坂市誌編さん室